

照葉樹林文化研究会ニュースレター No.18. Dec. 09, 2020; Rev.Jan.7, 2021.

照葉樹林文化研究会

照葉樹林文化研究会2020 in Zoom (研究集会) を開催しました。

時 2020年11月14日

場所 Zoom 上でのオンライン会議

研究発表 要旨集2~4ページに記載

2020年照葉樹林文化研究会世話人会・総会 審議報告 2020年11月14日開催

○2019年度事業報告および会計報告(前代表および会計幹事より説明、会計監査報告)

事業報告 1月~12月 中尾 DB の改善 モノクロフィルムの DB 化: WEB での公開に向けた電子化作業(ブータン1958年のブローニー版) / 探検資料の整理: 未整理の腊葉標本と学術資料を整理 / 国内撮影スライドの電子化: 室生寺のシャクナゲなどをスキャン

11月16日 研究集会(於大阪府大:世話人会、研究発表、総会) ニュースレターNo.17

会計報告 総会で承認された。

2019年度(2019年1月1日-12月31日)決算報告書

| | 項目 | 金額 | 備考 |
|---|----------------------|--------|---------------------------|
| 【収入】 | 2018年度 繰越金 | 60,000 | |
| | 借入 | 6,510 | 立替分、決算承認後に翌年度(2020)に返済予定 |
| | 収入合計 | 66,510 | |
| 【支出】 | HP維持のためのプロバイダ契約料 | 6,510 | BIGLOBE(プロバイダ)1-12月の12ヶ月分 |
| | 支出合計 | 6,510 | |
| 2019年度 【収支】 | 66,510(収入)-6,150(支出) | 60,000 | 2019年度残金(2020年度への繰越し分) |
| 2019年度の会計および活動を監査した結果、適正に処理されたと認めます。 監事 前中久行・水野杏紀 押印省略 2020年11月7日 | | | |

2020年度(2020年1月1日-12月31日)予算

| | 項目 | 金額 | 備考 |
|----------------|-----------------------|--------|--|
| 【収入】 | 2019年度 繰越金 | 60,000 | 借り入れ分(プロバイダ契約料の2018年度2ヶ月分1080円と2019年度1年分の6500円)を含む |
| | 収入合計 | 60,000 | |
| 【支出】 | HP維持のためのプロバイダ契約料 | 6,600 | 月額550円のままとして12ヶ月分で算出 |
| | 支出合計 | 14,190 | 借り入れ分(プロバイダ契約料の2018年度2ヶ月分1080円と2019年度1年分の6500円) |
| 2020年度 【収支】 | 60,000(収入)-14,190(支出) | 45,810 | 2021年度への繰越し予定 |

○研究会規約改正（2021年1月1日より）

改正案

規約四 現行 研究会の所在地は、世話人会が定めるところとする。

追加 附記 所在地は堺市中区学園町1-1 大阪府立大学（中百舌鳥キャンパス）内とする

規約五 現行 会員は、研究会の趣旨に賛同する者で、世話人会で承認された者とする。

追加 会員は、年会費を納入し、研究集会での発表および研究会誌の閲覧と電子ジャーナルへの投稿資格を有する。

規約十三 現行 会費は、必要が生じた時に徴集する。金額は総会で定める。

改正 会費は、年1000円とする。在学中等で支払い困難な場合は申請に基づいて無料とする。

○研究会誌（電子ジャーナル）の発行について

投稿規程および執筆要領（案）の紹介：HPで周知することになった。

○2020年度 会計監査委員の委嘱 上田善弘氏および大澤良氏に委嘱する。

○2020年事業（経過）報告

- 1 2020年研究集会（11月14日）招待講演2課題と研究発表3課題
- 2 中尾スライド（国内分）およびモノクロフィルムの電子化
- 3 ブータン動画の編集
- 4 中尾佐助採集さく葉標本の移動 大阪府立大学総合図書館中百舌鳥より大学農場（研究教育フィールド）へ移動した

○2020年度予算計画（会計幹事より）

○2020年度第1回世話人会 緊急事態宣言に伴う運営方法について審議した。

○2021年度よりの運営体制

世話人の再任 副会長1名および世話人3名の役職変更および削除

○2021年事業計画

次回研究集会 コロナの状況を勘案し、Zoomによるオンライン集会を計画する。

電子ジャーナル創刊号の発行 8月を目途に原稿を集め、フリーで公開する。

研究集会要旨集

-招待講演-

1. 「ミャンマー山地・丘陵地の人と有用植物」

東京農業大学農学部農学科 河瀬 眞琴

東南アジアの山地・丘陵地は、いわゆる照葉樹林帯と熱帯・亜熱帯林の境界に位置する。歴史的に複雑で独自の言語・文化・伝統を持つ少数民族が多数居住している。発表者らはミャンマーのカチン州、ザガイン地方域、チン州等の山地・丘陵地で有用植物の調査を現地研

究者と協力して行っている。急傾斜地ではイネを他の作物と混作する焼畑農耕が営まれ、緩傾斜で灌漑水が得られる所ではイネが棚田で栽培され、村落の周囲では多様な畑作物が栽培されている。平地と共通する作物もあるが、雑穀、マメ類、根菜類、香辛料等の地方品種、アカザ等の伝統的な作物栽培が続けられ、狩猟も行う。また、さまざまなウリ類が野生とも栽培とも言える状態で利用されている。

2. 「照葉樹林のキノコ食：雲南の野生菌火鍋にたどりつくまで」

京都大学霊長類研究所 湯本貴和

ブナ・ナラ帯で盛んなキノコ食が、なぜ照葉樹林帯では低調なのか。西南日本各地を訪ねて調査を重ねた結果、照葉樹林帯ではキノコの種多様性が高すぎて食用種と有毒種の区別が付きにくいためにキノコ食が忌避されているという仮説をたてた。では、照葉樹林帯の「本場」である中国・雲南ではどうだろうか。この観点で雲南を2008年から4回訪問し、調査をおこなった。その結果、滞在中にみかけた野生食用キノコは、いずれも形態的あるいは生態的に顕著な特徴をもっていて、近縁種から容易に区別できるものであった。このことから、多様な照葉樹林帯のキノコのうち、食毒の見分けやすいキノコのみが食菌として選択されてきたことが推測される。

-研究紹介・報告-

1. 「中尾佐助探検動画 1958 ブータン：カリンポンからパロの離宮へ、そして王宮まで」

大阪府立大学名誉教授 山口裕文

よれよれになった8ミリテープから9分8秒の動画を再現した。動画は順不同であったが、カラースライドを織り交ぜてブータン探検の前半を紹介する。この初期再現動画は、2018年にブータン国王に贈呈したものである。

主な画像は、カリンポンの市場での露天芸人、パロの離宮広場での人々の動き、王宮の庭園と剣舞する兵士である。

2. 「近年のネパールの住居構造が創る園芸文化と地域景観」

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 大野朋子

ネパールの首都カトマンズでは、レンガ仕立ての細長くカラフルなアパートメントハウスが隙間なく密集する。固有の居住区コミュニティが形成され、コンテナガーデニングの広がりが見られた。特有な居住区形態の屋上やベランダの限られた空間にマリーゴールドの他、キク類やポインセチア、様々な園芸植物の鉢植えが並ぶ。しかし、中尾スライドベースでみる約40年前のカトマンズの風景には、むき出しのレンガとトタン屋根の住居にほんのわずかな鉢植えが見えるだけであった。人口の集中や近代化による彼らのライフスタイルの変化とこれまでの伝統的な慣習、宗教など文化的背景が相俟って現代的ネパールらしい地域の様相を生み出していた。

3. 「ニューギニア島高地における西部ダニ族の石蒸し調理具としての雑草」

東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科 宮浦理恵

ニューギニア島西部、インドネシア・パプア州（旧イリアンジャヤ州）のバリウム盆地（標高 1600～2600m 付近）で 1995 年に行った現地調査を報告する。主食であるサツマイモの伝統的な調理法は、地炉による「石蒸し」と「焼き」の 2 つである。地面に掘った穴に水を含ませた植物と焼いた石を順に敷いていき、食用の作物を入れて最後に植物の葉で閉じて蒸す。石蒸しに使える植物と使えない植物が認識されており、使われた植物全てに名前が付けられていた。オセアニアで一般的なバナナ、タロイモ、ヤシの葉などは用いられず、常緑照葉樹林に生える木本や灌木の枝葉、シダ類、単子葉草本等が決められた順に敷かれた。石蒸しはでき上りまで 2 時間ほど必要とし、昼の食事用に行われていた。